

# 平山城跡、平山季重館跡(日野市)

築城年代:平安時代末期、築城者:平山季重

平山城址公園のエリアにある季重神社が平山城跡とされる



# 平山城跡

ここから城址公園に入る



ここを進むと平山城址公園となっている丘陵の北端に突き出た尾根上にある季重神社がある



前方が季重神社/武蔵七党の西党の最大勢力として平山氏を名乗り、一ノ谷の戦いでは熊谷直実と先陣争いをしたことで知られる平山季重を祀る



神額には「平山季重神社」と記されている



小さな社殿



アップで見たところ



非常に狭い場所だ





城と言うよりは高台からの「見張り場」のような機能を持っていたのかもしれない/また、北側山麓には平山氏の館跡があるので、その詰めのようなものであったと思われる



前方は麓から見た城跡



## 平山季重館跡

さて、京王線の平山城址公園駅前のロータリーに平山氏館跡の石碑が立っている/右手背後に見える丘陵が平山城跡



平安時代末期～鎌倉時代初期の武将である平山季重の居館跡を示す石碑/この辺りが館跡らしい/季重光霊地碑と平山季重遺跡之碑



説明坂がある

市指定史跡

平山<sup>すえ</sup>季<sup>しげ</sup>重居館跡

平山季重遺跡の碑が建てられている周辺は、もと曹洞宗由木永林寺末・大福寺のあったところで、古く平山季重の館跡であったと伝えられている。文化2年(1805年)、大福寺を訪れた平山正名(下総国香取郡鏑木村・季重の子孫と称する)は寺内の季重の墓に詣で、その荒廃を嘆いて修復を發願した。その意思は子の正義に受け継がれ、遺跡の碑は正義によって建てられた。碑文の筆者は幕末の剣客として有名な男谷精一郎信友である。季重居館跡の碑は、大正14年(1925年)に七生青年団平山支部によって建てられた。

昭和36年(1961年)10月1日指定

日野市教育委員会

**The residence site of Hirayama Sueshige**

(designated as a **Historic Site of Hino** on Oct.1,1961)

The place where the monument "Hirayama Sueshige Site" stands has been said to be formerly a residence of Hirayama Sueshige, a warrior general. The monument was erected by Hirayama Masayoshi, who called himself a descendant of Sueshige, in the Edo period.

Hino Board of Education

## 宗印寺

さて、ここはその丘陵の北側中腹に建つ宗印寺/宗印寺の境内には平山季重の墓所があるらしい



本堂



その右手を見たところ/手前に説明板が立っている





# 宗印寺の市指定有形文化財

## 木造平山<sup>すえしげ</sup>季重坐像

平山季重は武蔵七党の武士団に属し、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて源氏に従い活躍した武将だが、晩年には仏門に帰依したと伝えられる。像は小形ながら、基本的には頭、体部を通じ前後二材と両側面各一材、それに膝前一材を用いた寄木造である。剃髪し、袈裟を着けた法体形に表される。太い眉、意志的な口元は肖像彫刻として像主の個性をよくとらえたものと思われるが、手なれた技法や作風から江戸時代前期の制作と考えられる。故人の遺徳を追慕して造立されたものであろう。

## 木造地蔵菩薩坐像および千<sup>ひまつり</sup>躰地蔵(日奉地蔵)

本尊地蔵菩薩坐像を中央に、左右両脇にそれぞれ500体の地蔵を安置する。本尊地蔵は左手に宝珠を持ち右手に錫杖を持つ延命地蔵で、漆箔を施されており、小像ながら優品である。千躰地蔵は、台座も共木で像身に金泥を施してあり、背面には寄進者と思われる人名が記される。後補のものもあり、かつ2体を欠失するが、千躰地蔵としてはほぼ完全な形を伝えており貴重である。

日奉地蔵の名は、日奉氏から出た平山季重が本地蔵堂を草創したという伝えに基づく。現在の本尊、千躰地蔵は共に江戸時代前半のものと推定される。

## 木造薬師如来坐像(平山薬師)

左手に薬壺を持つ寄木造の坐像で、高さ33cm、朱衣金体に彩色されている。薬師如来は人々の心身の病苦を救うとされるが、この薬師は平山薬師と俗称され、特に眼の病を治すことで厚く信仰されている。平山薬師は、江戸時代初期にこの地域の領主中山照守によって創祀されたと伝えられており、本薬師像もその頃の制作と考えられる。

昭和36年(1961年)10月1日指定

日野市教育委員会

## Cultural Properties of Hino in the Sōinji Temple

The Image of Hirayama Sueshige, a warrior general who lived during the end of the Heian to the beginning of the Kamakura period, is made in a form of a Buddhist Priest. Images of the Jizōbosatsu and the Sentaizō (thousand images of Jizō) have been said to have relation with Sueshige. The Image of the Yakushinyorai has been said to cure eye diseases. These Cultural Properties are conjectured to be made in the Edo period.  
(designated on Oct.1.1961)

Hino Board of Education

正面が木造平山季重坐像/江戸時代前期の作とされる



アップで見たところ



正面が平山季重の墓/説明坂が立っている



# 都旧跡 平山季重 墓

所在地 日野市平山六―十五―十 宗印寺内  
指 定 昭和十一年三月四日

平山季重は平安末期、鎌倉初期の東国武士の典型である。平山氏は武蔵七党の中の一つ西党に属し宗家日奉氏の分派になる。秋川流域を中心として後代この地を支配した小宮氏は平山氏の同族で政権の移転によって改姓したのではないかという説もある。

建保元年（一一二一）五月の和田の乱で横山党は滅亡したが、同族の平山氏はこの乱に加担しなかつたと思われる。季重は一の谷合戦に際し熊谷直実、直家父子とともに勇名をはせたことが活写されているように、豪放大胆な関東武士の面影をあますところなく発揮し、さきの保元、平治の乱にも活躍した人物である。

五輪塔の高さは一・七メートル、旧平山小学校内にあつたが、大福寺が明治六年（一八七三）に廃寺になつたので現在地に移転された。この墓は季重二十五代の孫松本藩の平山季長が追悼のために建立したものである。

平成十四年十月一日 建設

東京都教育委員会

文化財を大切にしましょう



アップで見たところ



他にもさまざまな石造物があった



市指定史跡（歴史資料）

## 林丈太郎の墓碑（平山陸稲発見者）

林丈太郎は、明治8年5月3日旧平山村に生まれた。農業に精励し、「平山陸稲」を発見したことで知られる。

明治44年、在来種である陸稲「<sup>せんしゅう</sup>戦捷」を栽培中、不熟粒のない1本の穂を発見し、これを原種として栽培増殖をはかった。この新しい陸稲は、かんばつ、病虫害に強く、食味もよく、しかも多収性というすぐれた性質をもち、附近の人々はこれを「丈太おかぼ」と呼び栽培がひろがり、のち奨励品種「平山陸稲」として登録され、東京府下はもちろん全国的に普及した。

林丈太郎の墓は本寺境内墓地にあり（法名 高岳丈名居士）、昭和28年有志によって記念碑が建てられた。

昭和56年3月1日

日野市教育委員会





愛染明王の線刻画





布袋尊



六面に彫られた地藏尊



参考ホームページ

<https://sirotabi.com/2030/>

<http://yogokun.my.coocan.jp/tokyo/hinosi.htm>

<https://blog.goo.ne.jp/ihcirot/e/d3678aa4668a91fbf548fb0d1ccbfc99>

<http://shmz1975.cocolog-nifty.com/blog/2016/10/post-d987.html>

<http://www.siromegu.com/castle/tokyo/hirayamayakata/hirayamayakata.htm>

<https://4travel.jp/travelogue/10632493>

<http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/012tokyo/074hirayama/hirayama.html>

<http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/012tokyo/075hirayama/hirayama.html>

平山城跡



平山季重館跡

